

J R 芦原温泉駅周辺地区
竹田川周遊整備構想
(素案)

令和5年7月 改訂

あわらし土木部建設課

目 次

1 整備構想の目的と概要	1
1. 目的	1
2. 地区の設定	1
3. 拠点と周遊軸の設定	1
2 駅前児童公園の整備構想	3
1. 駅前児童公園の概況	3
2. 上位計画及び法規制の整理	4
3. 主要課題と前提条件の整理	5
4. コンセプトと整備方針	6
5. 植栽の整備方針	10
6. テクスチャーの整備方針	12
3 市道の整備方針	15
1. 市道整備の目的	15
2. 市道の整備方針	15
4 サインの整備方針	16
1. サイン整備の目的	16
2. サインデザインの経緯	18
3. サインの整備方針	19
5 事業推進にむけて	21
1. 事業手法	21
2. 事業スケジュール	22

1 整備構想の目的と概要

1. 目的

本整備構想は、JR芦原温泉駅周辺地区 において、竹田川や都市公園、市道の既存資源を活かし、地域住民をはじめ市民や来訪者まで、誰もが、日常的に集い、周遊したくなる魅力的な拠点と周遊軸の整備を目的とします。

2. エリアの設定

本整備構想の地区は、JR芦原温泉駅周辺の竹田川部とします。以下の地区内の自然資源、施設を結び、周遊軸を創出します。本構想では、建設中のJR芦原温泉駅やアフレア、県道芦原温泉停車場線の整備を踏まえ、駅前児童公園と市道を活用し、魅力的な拠点と周遊軸の整備方針を策定します。

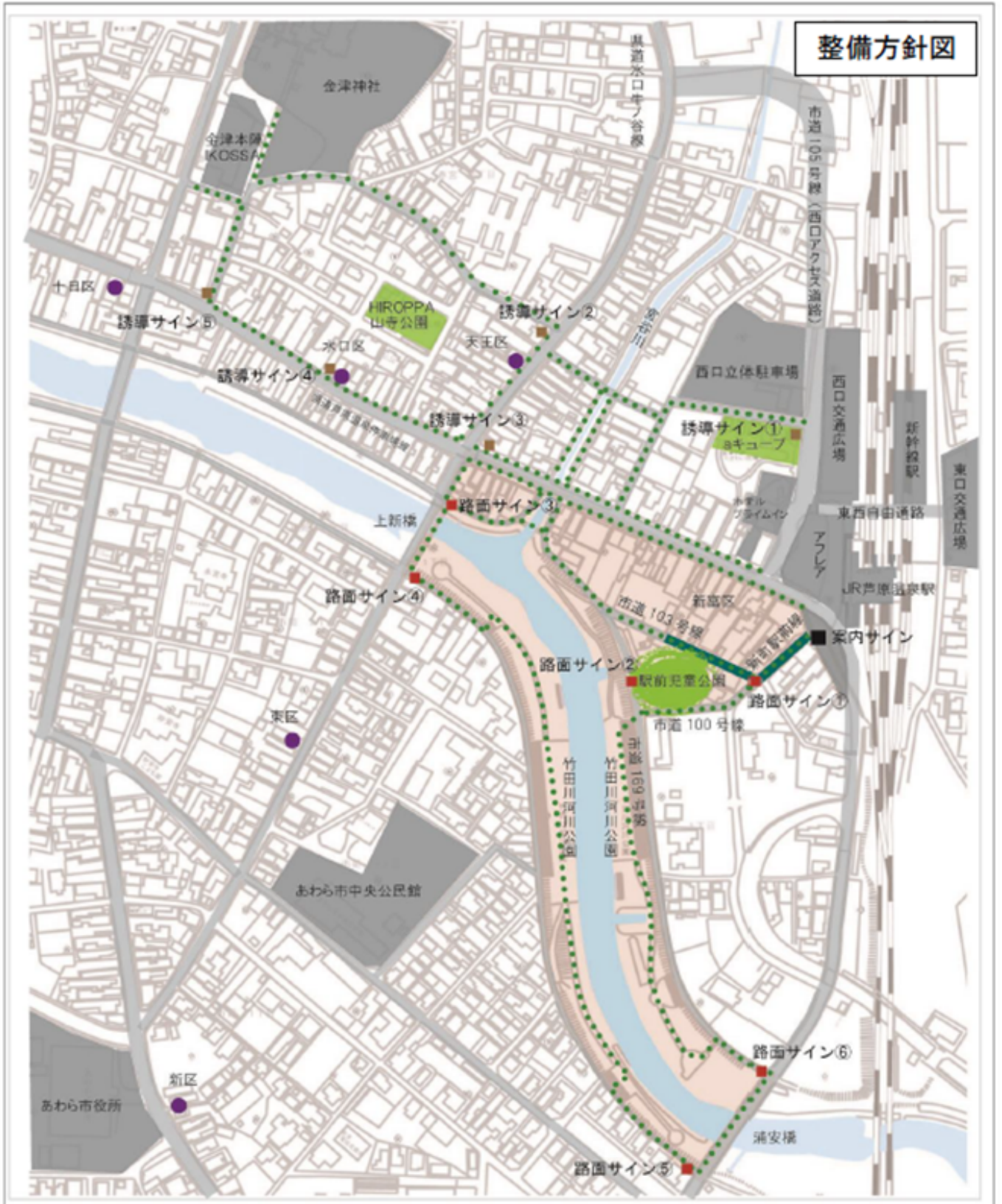
本整備を踏まえ、竹田川やaキューブ、金津本陣IKOSSA、金津神社、各区の本陣飾り、店舗への回遊性を高め、エリア全体の回遊性とにぎわい創出をめざします。

自然資源	竹田川、宮谷川
施設	JR 芦原温泉駅、西口立体駐車場、アフレア 駅前公共空地、駅前児童公園、山寺公園(HIROPPA) aキューブ、金津本陣 IKOSSA、金津神社 本陣飾り(新富区、天王区、水口区、十日区、東区、新区) ホテル、店舗
周遊軸	緑の軸、水の軸

3. 拠点と周遊軸の設定

駅前児童公園(都市公園)を拠点とし、市道を活用した魅力拠点とアクセス道路の整備、サイン整備とソフト事業における周遊性の創出をめざします。

整備方針図



- | | | |
|---|--|--|
|  施設 (既設) |  誘導サイン (既設) |  竹田川周辺
整備構想位置 |
|  公園 (既設) |  案内サイン (整備) | |
|  本陣飾り (既設) |  路面サイン (整備) | |
|  周遊コース |  カラー舗装 (整備) | |



2 駅前児童公園の整備構想

1. 駅前児童公園の概況

■位置付け

駅前児童公園は、都市公園の街区公園に位置づけられています。街区公園は、半径 250m 程度の街区に居住する人々が利用する 0.25ha を標準とする公園です。かつては子どもの利用を中心とする児童公園という名称でしたが、多世代が利用できる街区公園と名称変更しました。

「心身の健康増進の場」「子どもの健全な育成の場」「スポーツ、健康運動の場」「地域コミュニティの場」の利用効果があり、近隣の住民にとって最も身近な公園です。

■立地特性

駅前児童公園は、こうした特性に加え、竹田川に面した水と緑の豊かな環境と景観が一望できる絶好の視点場であり、堤防を兼ねた市道に面する好立地となっています。

2024 年には北陸新幹線が開業となるJR芦原温泉駅まで約 100mと近く、来訪者や駅利用者が徒歩で公園や竹田川まで周遊できる立地特性があります。さらに、駅前通りである県道芦原温泉停車場線にも近く、駅前のホテルや店舗などの施設も範囲内に含まれ、来訪者が徒歩で訪れやすい立地にあります。

■対象と機能

以上から、以下の対象と対象者を踏まえた空間レイアウト、機能を設定します。

○地域住民、市民

憩いや休息、健康づくり、運動、散策やウォーキング、ランニング、サイクリングなど日常的に多目的に利用できる休憩機能、運動機能

○多様な年代層、性別層

赤ちゃん、子ども、若者、中高年、妊婦、障害者、前期高齢者、後期高齢者まで、年代、性別、身体的特性を踏まえ、誰もが訪問、移動、回遊、活用できる安全機能

○来訪者

北陸新幹線開業により、県外からの個人層、カップル層、ファミリー層、グループ層、ビジネス層など、来訪者が非日常的に来訪し、竹田川やまちなかの周遊を楽しめる景観や空間レイアウト

2. 上位計画及び法規制の整理

以下の上位計画、法規制を踏まえ、建築物、工作物、土地の形質の変更、樹木の伐採を行います。

あわらし市都市計画マスタープラン(平成29年度改定)	
名称 分類／種別 位置付けと配置方針 整備の重視すべき機能	駅前児童公園 都市公園／街区公園 周辺住民が日常的に利用する公園として位置付け、 <u>質の向上や適正な維持・管理</u> に取り組む。 レクリエーション◎、防災○
あわらし市景観計画(令和2年度変更)	
景観まちづくりの基本目標	金津市街地は、福井県の北の玄関口として、緑豊かな駅前空間や歴史的な文化資源、竹田川を生かした回遊性のある景観まちづくりを進めます。
工作物の新築、改築、増築、移転又は外観の変更 (景観形成基準)	<p>■配置</p> <ul style="list-style-type: none"> 山岳、北潟湖、丘陵地、海岸や河川などの自然景観の良好な眺望が得られる場所においては、<u>眺望確保に配慮して配置する。</u> <p>■色彩</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的に落ち着いた色彩を基調とし、<u>けばけばしい色の使用を避けて、周辺の景観との調和を図る。</u> <p>■意匠</p> <ul style="list-style-type: none"> 突出感や違和感を与えない形態や意匠とする。 <u>汚れにくく、耐久性の高い材料を使用し、良好な景観の維持に努める。</u> <p>■緑化</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地内や敷地は積極的に緑化する。 周辺の植生に適した種類の植栽を使用する。 柵や擁壁を設ける場合は、生垣や自然石風にするなど自然景観との調和を図る。
土地の開墾、土石の採取、その他土地の形質の変更、樹木の伐採	<p>■切土や盛土によって生じる法面</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該行為の区域の周辺においては、植栽又は景観に配慮した塀を設けるなど、<u>道路などの公共空間からの遮へい措置</u>を行う。 道路などの公共空間から容易に見える位置には広大な法面や擁壁が生じる場合、<u>法面や擁壁に植栽し、緑化</u>を行う。 行為後の跡地の自然環境の復元に当たっては、地域の植性に適した樹種を植栽し、<u>復元</u>する。
JR芦原温泉駅周辺地区 景観まちづくりガイドライン(令和2年改訂)	
建築物及び工作物の規模や配置、意匠及び敷地の緑化	<p>■共通事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 竹田川や宿場町の街並みが残す地域の特性を尊重し、<u>良好な周辺景観に与える違和感や雑然さを軽減</u>するよう努め、地域全体として調和のとれたものとなるよう配慮する。 花と緑の美しいまちづくりを進め、<u>民有地緑化と公共空間、オープンスペースの緑化や一体性・連続性のある花と緑の景観形成</u>に配慮する。 <p>■配置・規模</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺の景観を阻害したり、突出した印象を与えたりしないよう、<u>建築物及び工作物の規模及び配置に配慮</u>する。 駅前や商店街に位置する建築物の壁面の位置は、できる限り隣接する建築物に揃える等、<u>統一感のある街並みの形成</u>に配慮する。 <p>■建築ガイドライン</p> <ul style="list-style-type: none"> 色彩は、黒・濃グレー・濃茶・ベージュ・白を基本とし、<u>まちなみと調和</u>させる。 <u>木調・自然風の素材を活かし、温かみのある色彩</u>になるように努める。

3. 主要課題と前提条件の整理

■少子高齢化

- 中心市街地における高齢化の進行が顕著になっています。人生 100 年時代と言われ、高齢者になっても、元気に過ごせる健康寿命を延ばすことが重要となっています。
- 少子化の中、核家族化が一般的となり、ワンオペや孤育て、共働きの増加など、子育て世代を取り巻く環境も大きく変化しており、地域や社会との関わりや見守りが重要となっています。
- ユニバーサルデザインの環境整備により、ベビーカーや車椅子、手押し車を利用する人々をはじめ、障害者や高齢者になっても、誰もが快適に利用できる環境整備が重要となっています。

■景観

- JR芦原温泉地区景観形成地区に指定されており、景観まちづくりの目標である「水と緑と歴史がつながる風景づくり」として、民有地緑化と公共空間、オープンスペースの緑化や一体化・連続性のある花と緑の景観形成が重要です。
- 竹田川と沿道の大銀杏を一望できる風景となっていますが、本公園と堤防道路の段差により見ることができないことから、水と緑の眺望が楽しめる視点場の創出が重要です。
- 整備にあたっては、景観まちづくりガイドラインや建築ガイドラインに即し、公園そのものが、竹田川の水と緑と美しく融合し、街並み形成のモデルとなる建築物や工作物への配慮が重要です。
- 視点を揃える(盛土)、眺望を際立たせる(景観阻害要因の排除)、建築物・工作物(色彩や意匠、素材)、植栽(郷土種)など、美しく洗練された風景づくり、景観づくりが重要です。

■空間活用

- 日常的に利用する地域住民や市民は、憩い、散策、ウォーキング、ランニング、運動など、目的に応じて、使いやすいレイアウトやアプローチの多様性、高低差の解消など、誰もが訪れ、回遊できる空間づくりが重要です。
- 来訪者は、駅やまちなかからの回遊性、飲食やピクニックなど滞在しやすいベンチや木陰、個人使用やグループ使用など利用形態に対応できる空間レイアウトが重要です。季節や昼夜の変化が味わえる竹田川の眺望景観の保全と創出が重要です。
- イベントの活用において、河川敷やまちなかとの連動性のあるレイアウトとし、運用ルールを明確にしておく必要があります。

■安全性

- 敷地内に既設の防災倉庫を有しており、避難地としての役割もあることから、土地の形質の変更については、盛り土や擁壁、柵、工作物の仕様、植栽の樹種や高さなどに留意して配置することが重要です。
- 遊具を設置する場合は、耐候性、耐久性のある形状や材質に配慮するとともに、公衆トイレは、防犯対策を行い、清掃や監視体制など地元と協力して安全性を確保することが重要です。

■維持管理

- 都市公園の魅力の向上のために、適正な維持管理を行うことが重要です。年間の維持管理費の算出を踏まえた植栽計画にするとともに、四季を通じた樹木の剪定、芝の管理を計画的、継続的に行えることが重要です。
- 市と新富区の維持管理の役割分担を設定し、美しい状態で維持できる管理運営体制が重要です。

4. コンセプトと整備方針

○コンセプト

水、緑、人がやさしく融けこむ お気に入りのテラス

竹田川とまちの周遊を生む お気に入りの居場所がある 水と緑に融け込む公園

○整備方針

1. 竹田川の風景と融け合う 眺望の保全と水と緑の景観

竹田川の風景を一望できる絶景スポットとして、堤防道路からアプローチでき、風景を見渡せる眺望テラスを整備します。竹田川の風景と調和したシンボルトリーとサークルベンチを整備します。

園路は、竹田川の風景を楽しみながら、眺望テラスに移動できるように両側に園路を配置し、園内で回遊できる動線とします。防犯のための照明や園灯を配置し、やさしい灯りの景観を創出します。

2. 住民や来訪者が集う お気に入りの居場所づくり

「まちかどフロア」は、まちに面するフロアで、地域住民が日常的に利用しやすいよう、サークルベンチや駐車場、駐輪場を整備します。よちよち歩きの赤ちゃんやリハビリ中、介護の人々の成長や回復を見守り、日々の健康や運動につながる集いやすいフラットなフロアとします。

「ステップフロア」は、幅広でゆるやかな階段とし、踊り場フロアを中段に設け、読書や飲食など、静かに過ごしたい人に、植栽の前に小さなベンチを配置します。

「水と緑のフロア」は、少人数やグループ、散策や読書、おしゃべり、飲食、運動など、用途や気分に応じて、お気に入りの居場所づくりができるよう木陰とサークルベンチ、スクエアベンチ、ベンチを配置します。

河川側にデッキと木陰とサークルベンチを配置し、散策やウォーキング、ランニングの人々が休憩で立ち寄り、ゆっくり眺望を楽しめるよう、木陰やサークルベンチを整備します。

幼児用遊具や健康器具を整備し、子どもや若い世代、来訪者などが日常を味わえるようにします。コーナーにソーラー付発電型防災シェルターを配置し、災害時でも Wifi や電源が使える空間を整備します。

3. 赤ちゃんから高齢者まで 人々をやさしく迎える快適なデザイン

回遊スロープは、駐車場からゆるやかなスロープを登って眺望テラスへ移動できるようにし、誰もが竹田川や公園の景観や光景を味わうことができるように整備します。

公衆トイレは、男女別でそれぞれ車椅子対応とし、両方におむつ替えスペースを設けます。

車椅子駐車状とおもいやり駐車場とし、スロープと公衆トイレを利用しやすい配置とします。

建築ガイドラインに合わせて、黒、茶、白の色彩で街並み景観と一体感のあるデザインとします。

4. 竹田川とまちなかと人を結び 健康を生み出す 周遊スポット

堤防道路から公園内にどこからでもアプローチできるようにします。

まちなかや駅側に出入口と駐車場を配置し、まちかどフロアからステップフロア、水と緑のフロアを通して竹田川を周遊できるコースとし、竹田川とまちなかを結ぶ周遊拠点とします。

公園や河川敷でのイベントとして活用できるよう、テラスやデッキ、パーゴラなどフレキシブルに活用できる空間レイアウトとします。

空間レイアウト図

竹田川の風景と駆け合う 眺望の保全と水と緑の景観

- 眺望テラス
竹田川の風景を一望できる絶景スポットとして、堤防道路からアプローチでき、風景を見渡せる眺望テラスを整備します。
竹田川の風景と調和したシンボルツリーとサークルベンチを整備します。
- 園路
竹田川の風景を楽しみながら、眺望テラスに移動できるように両側に園路を配置し、園内で回遊できる動線とします。
- 灯り
防犯のための照明や園灯を配置し、やさしい灯りの景観を創出します。



住民や来訪者が集う お気に入りの居場所づくり

- まちかどフロア
「まちかどフロア」は、まちに面するフロアで、地域住民が日常的に利用しやすいよう、サークルベンチや駐車場、駐輪場を整備します。よちよち歩きの赤ちゃんやリハビリ中、介護の人々の成長や回復を見守り、日々の健康や運動につながる集いやすいフラットなフロアとします。
- ステップフロア
幅広でゆるやかな階段とし、踊り場フロアを中段に設け、読書や飲食など、静かに過ごしたい人に、植栽の前に小さなベンチを配置します。
- 水と緑のフロア
少人数やグループ、散策や読書、おしゃべり、飲食、運動など、用途や気分に応じて、お気に入りの居場所づくりができるよう木陰とサークルベンチ、スクエアベンチ、ベンチを配置します。
河川側にデッキと木陰とサークルベンチを配置し、散策やウォーキング、ランニングの人々が休憩で立ち寄り、ゆっくり眺望を楽しめるよう、木陰やサークルベンチを整備します。
幼児用遊具や健康器具を整備し、子どもや若い世代、来訪者などが日常を味わえるようにします。コーナーにソーラー付発電型防災シェルターを配置し、災害時でもWifiや電源が使える空間を整備します。

赤ちゃんから高齢者まで

人々をやさしく迎える快適なデザイン

- 回遊スロープ
駐車場からゆるやかなスロープを登って眺望テラスへ移動できるようにし、誰もが竹田川や公園の景観や光景を味わうことができるように整備します。
- 公衆トイレ
男女別でそれぞれ車椅子対応とし、両方におむつ替えスペースを設けます。
車椅子駐車場とおもいやり駐車場とし、スロープと公衆トイレを利用しやすい配置とします。
建築ガイドラインに合わせて、黒、茶、白の色彩で街並み景観と一体感のあるデザインとします。

竹田川とまちなかと人を結び

健康を生み出す 周遊拠点

- アプローチ
堤防道路から公園内にどこからでもアプローチできるようにします。
まちなかや駅側に出入口と駐車場を配置し、まちかどフロアからステップフロア、水と緑のフロアを通して竹田川を周遊できるコースとし、竹田川とまちなかを結ぶ周遊拠点とします。
公園や河川敷でのイベントとして活用できるよう、テラスやデッキ、パーゴラなどフレキシブルに活用できる空間レイアウトとします。

全体パース



竹田川から公園へのアプローチ



まちなかから公園へのアプローチ



駅から公園へのアプローチ

イメージパース



竹田川堤防道路から公園へのアプローチ



ステップフロアから水と緑のフロアへのアプローチ



まちなかから公衆トイレへのアプローチ



駅とまちなかから公園へのアプローチ



駐車場から公園へのアプローチ



公衆トイレの景観イメージ

5. 植栽の整備方針

景観まちづくりガイドラインを踏まえ、福井県の気候・風土に適した樹種とし、適正な管理を行う。

種別	樹種	特性	管理
広葉樹	アオダモ	日本各地に分布。モクセイ科の落葉樹。 山地に自生。春先に咲く花、涼しげな枝ぶり、幹に浮かぶ白点があり、シンボルツリーに使われる。 開花は4月～5月で、花の色は白又はクリーム色。	剪定時期は、10月～2月。 落葉期。葉に栄養を送る必要がなくなる落葉期に剪定。 骨格剪定と枝透かし剪定。
	アオハダ	日本各地に分布。モチノキ科の落葉樹。自生は丘陵地や山地の林内だが、樹形が端正で、葉と果実のコントラストが美しい。開花は5～6月で、短い枝の先に小さな淡い緑色の花が咲く。	剪定時期は休眠期に当たる落葉期の12月～3月。 美しい自然樹形を保つ。 年に1回程度の剪定。
	ジューンベリー	日本ではザイフリボクとして自生。葉が完全に展葉する前に白い花が数多く咲く。花以外にも、初夏に実る果実や、秋の紅葉、美しい樹形と、四季を通じて楽しむ、シンボルツリーに適している。	剪定時期は、休眠期にあたる12月～3月。 美しい自然樹形を保つ。 年に1回程度の剪定。
	アズキナシ	日本各地に分布。バラ科アズキナシ属の落葉樹。他の落葉樹と共に林内に自生する。端整な樹形、清楚な花、秋に赤い果実となる。開花は5～6月で直径1cm程の花が傘形に多数集まって咲く。	剪定時期は、葉が落ちた休眠期の12～3月。 限られたスペースで育てる場合、定期的に剪定。
	ツリバナ	日本各地に分布。ニシキギ科の落葉低木。山地や丘陵の林内及び林縁で見られる。花や果実を觀賞するため庭木として茶庭などに使われる。 開花は5～6月。小枝の先端にある葉の脇から吊り下がる花や朱色の果実には話題性がある。	剪定時期は、10月頃～2月頃。 骨格剪定。本幹途中からの中途半端な伐採は樹形の回復に時間がかかる。
常緑樹	コナラ	日本各地に分布。ブナ科の落葉広葉樹。自生は山地のやや乾いた場所で、材を薪炭に使うため民家近くで大量に植栽され、その名残が各地で普通に見られる。絵に描いたような形のドングリができる。	剪定適期・可能期は、落葉後の11月から翌年の4月。 6月から9月頃を除いたすべての期間が、剪定可能。
	ソヨゴ	日本各地に分布。モチノキ科の常緑樹。林内や林縁に見られる、山の尾根など乾燥地した場所に多い。常緑樹の中では雰囲気明るい。	剪定時期は、12月～2月。 葉を風通しが良くなるように剪定する枝透かし剪定。
	シマトネリコ	モクセイ科トネリコ属の樹木で数少ない常緑樹。1年中緑の葉をつける。寒さや暑さに強く育てやすい。5月下旬から7月にかけて、枝先に小さな白花が房のように咲き、やがて結実して白色の翼をもったタネが見られる。	剪定時期は、3月と、花が咲き終わった8～9月木。 木が弱るのを避けるために適切な時期に剪定を行う。 年2回程度。



アオダモ



アオハダ



ジューンベリー



アズキナン



ツリバナ



コナラ



ソヨゴ



シマトネリコ

6. テクスチャーの整備方針

景観まちづくりガイドラインを踏まえ、竹田川や樹木の水と緑をベースカラー、舗装やテラスをグレーの配合色カラー、デッキや柵、ベンチ、ルーフを茶色としたアクセントカラーとする。

素材や仕様は、安全性、耐候性、耐久性を重視し、景観に即した自然風の素材、色彩、意匠とする。

項目	仕様
タイル	眺望テラスやまちかどフロアのタイルはグレーの石畳風とする。
柵	柵は、木製風。110 cm以上で圧迫感のない板塀のイメージ。 目透しがあり、風景が見え隠れするデザインとする。 民家との隣接側は、1階の窓に圧迫感のない木製風の塀か柵を設ける。 民家との距離感を持つため、低木を隣地に植栽する。 築山やパーゴラから2階の窓が見えないよう、高さの設定に留意する。
園路	洗い出し。土舗装仕上げ。竹田川の風景と馴染むよう自然風のグレー。
デッキ	木製風プラスチック(耐久性を重視する)
階段	グレーで滑りにくい仕上げとし、手すりを中央、両方に設置する。 水と緑のフロアとステップフロアとの境界に転落防止の柵を設置する。
ソラルーフ	ソーラー発電式防災シェルター。環境と防災に配慮した屋根付きパーゴラ。 100台のスマホの充電が可能。Wifiを設置する。
ベンチ	サークルベンチ、カーブベンチ、スクエアベンチ、ミニベンチを配置。 座面は木製風の茶系、脚は黒。耐候性・耐久性を重視。 1人用、2～3人用、グループ用など人数や用途に応じて、フレキシブルにシェアでき、それぞれが独立して過ごせる仕様とする。
照明 園灯	防犯や死角を作らないよう、照明(高さ4,500mm)を的確に配置する。 園路の周囲は、歩行者用の園灯(高さ700mm程度)を配置する。
幼児用遊具	幼児用遊具は、安全性、耐久性を重視。 小学生以下を対象とし、トリムパーク(運動公園)やクレヨンランド(近隣公園)と差別化し、大型の遊具や劣化や維持管理のかかる遊具は配置しない。
健康器具	健康器具は、軽い運動レベルで、耐候性・耐久性を重視する。 若い世代、中高年、高齢者まで、幅広い層が利用できる仕様とする。
スロープ	滑りにくいコンクリート仕上げとし、手すり、仕上げは機能と安全性を重視する。
車止め	まちかどフロアの入口に車止めを設置する。 除雪や緊急時に取り外しができるポール型で濃茶色の色彩と仕様とする。
駐車場	アスファルト仕上げとし、車椅子マーク、思いやり駐車場マークを入れる。 マークは、けばけばしくならないように大きすぎず、視認しやすいデザインとする。



柵



園路



デッキ



階段



ソラーフ(ソーラー付発電型防災シェルター)



サークルベンチ



カーブベンチ



スクエアベンチ



ミニベンチ



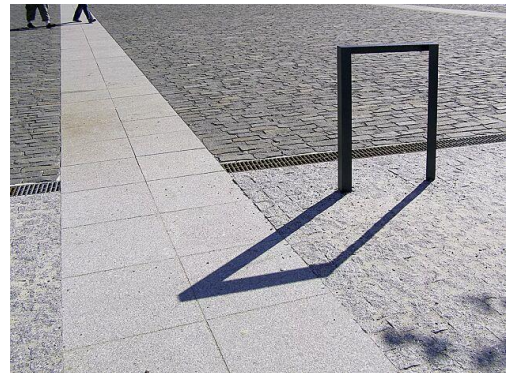
健康遊具



幼児用遊具



スロープ



階段前 転落防止柵



園灯
(H700mm)



照明
(H4500mm)



駐車場



車止め

3 市道の整備方針

1. 市道整備の目的

竹田川を軸とした周遊軸の形成において、JR芦原温泉駅とアフレアおよびまちなかの施設や店舗との回遊性の創出をめざします。

2. 市道の整備方針

JR芦原温泉駅とアフレアから駅前児童公園を経て、竹田川への周遊を創出するため、新町駅前線と市道 103 号線の舗装整備を行います。

舗装は、案内サインやマップで周遊軸を認識し、新町駅前線と市道 103 号線へと誘導し、駅前児童公園の景観を際立たせることから、歴史的な石畳み風の玉砂利洗い出し仕上げによる舗装とします。



●玉砂利洗い出し舗装のイメージ

4 サインの整備方針

1. サイン整備の目的

JR芦原温泉駅周辺地区のサイン整備については、平成28年度に案内サインと誘導サインの検討を行い、新富区、天王区、水口区に5本の誘導サインと3枚の説明サインを整備しました。

サインは、以下のように、系統的、体系的、既存デザインに即して検討を行う必要があります。

案内サインは未整備で、JR芦原温泉駅とアフレアの建設を踏まえ、設置する必要があります。

JR芦原温泉駅から駅前児童公園を経て、竹田川の兩岸を周遊するコースの誘導は、「記名サイン」「巡回型」「補助サイン」「線状配置」で検討を行う必要があります。

●サインの種類と特性

分類	特性	内容
案内サイン	範囲内の情報を総合的に掲載	JR芦原温泉駅に設置
誘導サイン (整備済)	分岐点に位置し、連続的に誘導方向性を示す。	7基設置 JR芦原温泉駅～aキューブ～本陣飾り(新富区、天王区、水口区)～金津本陣IKOSSA
記名サイン	目的地の名称を表示	巡回型、補助サイン、線状配置
説明サイン (整備済)	解説や利用方法、意図を説明	本陣飾りの説明(新富区、天王区、水口区)

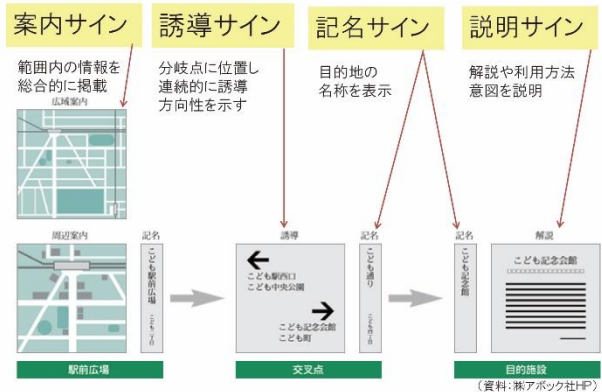
サインとは

人の生活環境下における理解・判断・行動を助けるための**情報伝達手段**のひとつ

サインの設置による効果

「目的地を案内する」
「全体をわかりやすくする」

サインの分類



歩行者系サインアイテム

総合案内

- ・広域案内図、市街地案内図 (市街地全体、中心市街地)
- ・周辺案内 (現在地を中心に1km四方)
- ・施設誘導 (矢印によって方向誘導)
- ・町丁名



独立型サイン

- ・周辺案内 (現在地を中心に1km四方)
- ・施設誘導 (矢印によって方向誘導)
- ・町丁名
- ・通り名



補助サイン

- ・周辺案内 (現在地を中心に1km四方)
- ・施設誘導 (矢印によって方向誘導)
- ・町丁名
- ・通り名



(資料: 岐阜市サイン整備 HP)

人の行動パターン

目的型

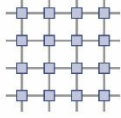
一つの目的地だけをもつ。
JR芦原温泉駅→IKOSSA

巡回型

アプローチから第1の目的地に到着後、新たな目的地に向かうようなケース。順序は利用者ごとに異なる。
JR芦原温泉駅→aキューブ→金津本陣(地区)→IKOSSA

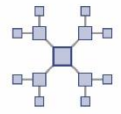
配置の基本系

投網配置



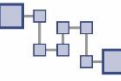
計画対象地域にきまなく配置
移動の起点、終点を特定せず、あらゆる
移動経路に対応しようとする考え方

階層配置



限られた移動の起点を想定し、そこ
から不特定の終点に向かって情報を
配置する考え方

線状配置



あらかじめ起点と終点を想定し、その
間の要所に情報を配置する考え方

誘導システムの基本

線状配置

アプローチ	サインの種類	候補場所
起点 ↓	案内サイン	JR芦原温泉駅 aキューブ
分岐点 ↓	誘導サイン	金津本陣(地区) IKOSSA
目的地	記名サイン	金津本陣(地区) IKOSSA

サインの景観上の留意点

既存サインとの関係

- すでにサインが設置されている場合は、これらを含めて検討
- 景観上、1基の設置に対し、1基以上の撤去を目標とする

経年変化、環境に適応したデザイン

- 永年にわたって使用されるサインは、どんな環境にも、いつの時も人々の指示されるオールマイティなデザインでなければならない
- 個性が強すぎるものは避ける
- 時代が経過しても古さを感じさせないシステムとメンテナンスが必要

サインデザインの考え方

機能的かつ周囲に馴染んだデザイン

機能 誰にでも分かりやすいサインを心がける

素 材	耐久性のある構造、素材
福 祉 面	視覚障害者、外国人、高齢者に対する配慮
人間工学面	体格差に対する配慮
設置場所	狭い場所での設置の考慮、死角への配慮

デザイン

親しみやすいデザインを心掛ける

環境との調和、地域性(金津らしさ)の追求

- 独自性** その地域の「地理」「歴史」「風土」の背景を十分に理解し、表現する
- 統一性** デザインに一貫性をもたせる。「らしさ」を求めず「スタンダードデザイン」

オリジナリティの創出(歴史、風土の反映、景観との調和、統一性)
飽きのこないデザイン(環境の経年変化に対応、耐久性のある素材)
他の事業との調整(ストリートファニチャーとの統合)

コスト

- ランニングコストが安いもの
- 品質に見合った適切なコスト

メンテナンス性

- 耐久性があるもの
- 清掃が容易
- 部品供給が容易

ユニバーサルデザイン

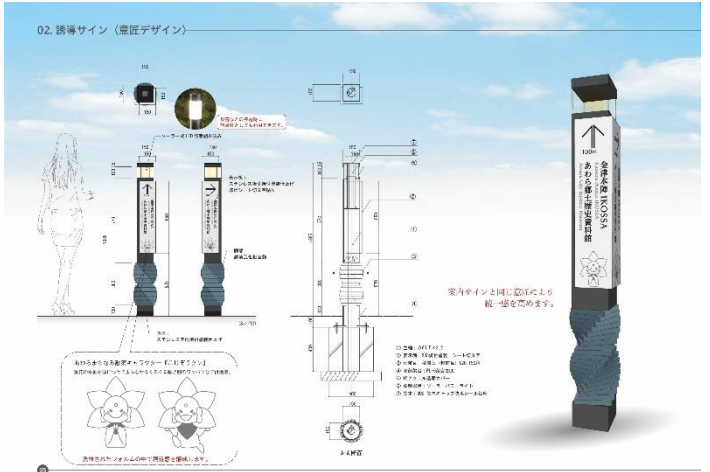
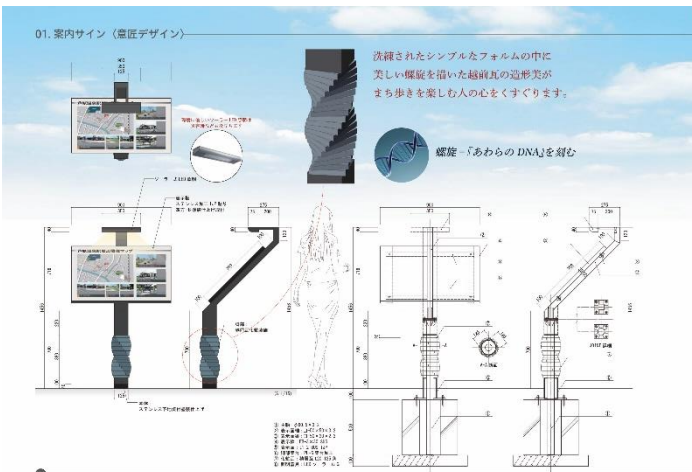
- すべての人のためのデザイン(計画・構想・設計)
- 年齢・性別・障害の有無等にかかわらず、すべての人に配慮されたデザイン
- 外国語表記(世界共通語の英語併記。多国語→煩雑)

●サイン計画の考え方

2. サインデザインの経緯

平成 28 年度に整備した誘導サイン、説明サインのデザインコンセプトは以下となります。

景観まちづくりガイドラインでは、景観まちづくりの方針「水と緑と歴史による回遊性の創出」を踏まえ、自然とまちなみが調和した河川景観の景観形成をめざしており、既存のサインデザインも踏まえた説明デザインとする必要があります。



●案内サイン、誘導サインのプラン(H28)

3. サインの整備方針

- ◆竹田川周遊のサインは、堤防道路の幅員も狭く、景観阻害や障害物となることから、路面型サインとします。記名型で、巡回型、補助サイン、線状配置となり、次の分岐点と距離を表示します。
- ◆竹田川の周遊は、右回りと左回りの両方となるため、進む方向と戻る方向の2つの目的地と距離の掲載となります。誘導サインは約100m間隔で配置していますが、堤防道路は視界を遮る建物がないことから、数100m間隔か分岐点に配置することとします。
- ◆配置コースは、JR芦原温泉駅→駅前児童公園→竹田川堤防道路→上新橋→浦安橋→駅前児童公園→JR芦原温泉駅とします。
- ◆デザインについては、景観ガイドラインの看板の方針及び既設の誘導サインと合わせ、ベースカラーは路面に馴染む灰色系とします。文字やフォントは、歴史的な明朝体とシンプルなマーク、ロゴとし、的確に周遊できる情報を掲載します。けばけばしい色彩やカラー舗装、キャラクター類は使用せず、配置場所や掲載情報、デザインコンセプトを検討した上で、整備することとします。
- ◆新幹線開業をふまえ、竹田川の周遊を促進するため、竹田川周遊コースと時間、距離、消費カロリー等を記載した周遊時間表示看板を設置します。案内サインの横に期間限定で配置し、竹田川や駅前児童公園への誘導を行います。景観ガイドラインに即した色彩や素材に配慮した簡易看板とします。



●路面サインのイメージ

参照：肥前浜宿の路面誘導サイン

<p>路面サイン①</p> <p>↑駅前児童公園 30m</p> <p>↑竹田川河川公園 100m</p> <p>↓JR芦原温泉駅 100m</p>	<p>路面サイン②</p> <p>↑上新橋 200m</p> <p>↓JR芦原温泉駅 150m</p>	<p>路面サイン③</p> <p>↑金津本陣IKOSSA 400m</p> <p>←竹田川河川公園 150m</p> <p>↓JR芦原温泉駅 300m</p>
<p>路面サイン④</p> <p>↑浦安橋 500m</p> <p>←JR芦原温泉駅 500m</p> <p>←金津本陣IKOSSA 400m</p>	<p>路面サイン⑤</p> <p>↑JR芦原温泉駅 500m</p> <p>↑竹田川河川公園 300m</p> <p>↓上新橋 500m</p>	<p>路面サイン⑥</p> <p>↑JR芦原温泉駅 500m</p> <p>↑竹田川河川公園 200m</p> <p>↑駅前児童公園 400m</p>

●路面サインの掲載情報(例)

5 事業実施にむけて

1. 事業手法

本事業は、国土交通省の「まちなかウォークアブル推進事業」など国庫補助事業を活用した事業推進をめざします。

「まちなかウォークアブル推進事業」は、「車中心から人中心の空間へと転換を図る」「まちなかの歩いて移動できる範囲において、滞在の快適性の向上を目的として市町村や民間事業者等が実施する」「道路・公園・広場等の整備や修復・利活用、滞在環境の向上に資する」取組を重点的・一体的に支援し、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりを推進する事業として、令和2年度に創設されました。

竹田川周遊に関する計画として、「駅前児童公園の整備」「浦安橋から上新橋までの区間」「低水護岸の活用」「商店街のアクセス、活性化」を検討し、整備構想の策定と市民の合意形成を踏まえ、国へ事業申請を行い、事業実施に取り組みます。

まちなかウォークアブル推進事業



○車中心から人中心の空間へと転換を図る、まちなかの歩いて移動できる範囲において、滞在の快適性の向上を目的として市町村や民間事業者等が実施する、道路・公園・広場等の整備や修復・利活用、滞在環境の向上に資する取組を重点的・一体的に支援し、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりを推進する事業

事業主体・補助率

【交付金】市町村、市町村都市再生協議会 国費率：1/2
 【補助金】都道府県、民間事業者等 国費率：1/2

施行地区

① 都市再生整備計画事業の施行地区※、かつ、
 ② 都市再生特別措置法に基づく滞在快適性等向上区域
 (当該区域の周辺整備に係る事業が実施される地区を含む)

※立地適正化計画策定に向けた具体的な取組を開始・公表していない市町村に対する令和6年度末までの経過措置は対象外

対象事業

【基幹事業】道路、公園、地域生活基盤施設（緑地、広場、地域防災施設等）、高質空間形成施設（歩行支援施設等）、既存建造物活用事業、滞在環境整備事業、エリア価値向上整備事業、計画策定支援事業※ 等

※都市再生整備計画にアサイン化、デジタル技術・データの活用、子ども・子育て支援等の取組が促進する（重点的に実施のテーマ）及びテーマに取組む目標・指標を設定した場合に実施可能

【提案事業】事業活用調査、まちづくり活動推進事業、地域創造支援事業（市町村の提案に基づくソフト事業・ハード事業）



事業のイメージ

Walkable 歩きたくなる空間の創出

- 街路空間の再構築
- 道路・公園・広場等の整備及び既存ストックの改修・改変
- 道路の美装化・芝生化、植栽・緑化施設や水上デッキの整備等による公共空間の高質化
- 滞在快適性等向上区域を下支える周辺環境の整備（フリンジ駐車場、外周道路等の整備）

Eye Level 歩行者目線の1階をまちに開放

- 沿道施設の1階部分をリノベーションし、公共空間として開放
- 1階部分のガラス張り化等の修景整備

Diversity 既存ストックの多様な主体による多様な利活用

- 官民の土地・施設を一体的に改修し、自由に利活用できるコミュニティバスや公開空地として開放
- 公共空間にイベント等で利用できる給電・給排水施設等を整備
- 利活用状況を計測するセンサーの設置や、データを分析・見える化し、まちの情報を発信するシステムの整備

Open 開かれた空間の滞在環境の向上

- 屋根やトイレ、照明施設、ストリートファニチャー等の整備
- 滞在環境整備に関する社会実験やコーディネート等の調査

●まちなかウォークアブル推進事業 (資料:国土交通省ホームページ)

2. 事業スケジュール(案)

	初年度	2年度	3年度
地域住民との協議・調整	整備構想(案):協議、パブリックコメント、意見聴取、ソフト面協議、公園整備のワークショップなど		
設計	基本設計	詳細設計	
整備① ガードレール更新等		維持修繕発注	
整備② 舗装、路面標示等		舗装、路面標示、案内看板など	
整備③ 駅前児童公園整備			公園整備